

つながるコミュニティ農園

～地域で育てる「野菜」と「つながり」～

つながる鎌倉エール事業
令和7年度 実施事業 公開報告会

1. 団体と事業の概要
2. 活動を始めた背景・地域課題
3. 実施内容
4. 成果・参加者の変化
5. 課題と改善
6. 今後の展望



NPO法人 未来鎌倉をつくる会
報告者：代表理事 張替 克之

2026年5月30日（土）

1. 団体と事業の概要

➤ 「子ども」「農」「地域」をつなぐ市民主体の活動

🌱 「子ども」「農」「地域」をつなぐ市民主体のNPO法人

🌻 団地の花壇スペースを再生し、誰もが関われる農園を運営

👨👩👧 土に触れ、育て、分かち合うことで、多世代・多文化の交流を創出



2.活動を始めた背景・課題

➤ 農園を通じて孤立・分断・防災課題に向き合う

- ✓ 団地では、高齢化の進行、住民同士の孤立、外国籍住民との文化の違いによる分断といった課題がありました。
- ✓ 同時に、防災力・防犯力の強化も求められていました。
- ✓ そこで、「人が自然に集まり、顔の見える関係を育める場」として農園活動を始めました。

 防災×福祉×教育×多文化交流

 地域で協力して野菜を育てる

 災害時にも役立つ作物

 安心して暮らせる地域づくりに

 子どもが地域に関わる場づくり

3.実施内容

➤ 育てる・分かち合う・備える活動へ

📍 芋煮会や収穫祭
を開催（年2回）

- 各100食分の野菜提供
- ✓ 8/3夏祭：防災カレー
- ✓ 11/2避難訓練x炊出：トン汁

バディ・システム

- パン教室開催
- ✓ 6/22：野菜提供

🗣️ ワークショップ
で学ぶ（防災・環
境・国際交流）

🍳 非常食づくり
・安否確認の訓練
も

- 防災（炊き出し・安否）訓練
- ✓ 11/2避難訓練x炊出x安否

➤ 農園：楽しい交流の場、支えて育てる

4.成果・参加者の変化

➤ 農園で育ったのは、野菜だけではありません

- ✓ 多世代・多文化の交流が生まれた
- ✓ 子どもが「種まき→成長→収穫→食べる」を体験できた
- ✓ 「心が安定した」「家族の会話が増えた」などの変化
- ✓ 遊休地や高齢者の知恵を活かす活動へ



5. 課題と改善

➤ 継続のための課題と、今後の改善

課題

改善

運営・経費負担の増大

- ✓ 栽培管理、参加者対応、イベント準備、安全管理などの負担増

運営体制の整備※

- ✓ 役割分担、協力者の確保、必要に応じた有償ボランティア等の検討

※役割分担/協力者確保/会費・寄付・行政連携

参加目的の違い

- ✓ 農業を学びたい人、子どもの教育を重視する人、交流目的の人など、期待値に幅

教育価値・参加メニューの明確化

- ✓ 食育・体験・交流など、参加目的に応じた関わり方の整理

継続参加の波

- ✓ 多忙や季節変動により、参加率が下がる時期があり

参加者の役割づくり

- ✓ 近隣自治会・町内会等とも連携し、継続的に関われる役割や参加機会作り

6. 今後の展望

➤ 農園から、地域の社会インフラへ

① 食育・体験学習の場へ

- 種まき・成長・収穫・食べることを通じて、食と命のつながりを学ぶ。

② 地域交流・居場所の場へ

- 高齢者・子ども・子育て世代・外国籍住民などが、無理なく関わられる場にする。

③ 参加機会の拡大へ

- 現地参加だけでなく、オンラインも活用して、関わられる人を広げる。

④ 地域を支える仕組みへ

- 自治会等とも連携し、人と地域と食をつなぐ仕組みにする。

ご清聴ありがとうございました

🌸 農園を通じて、
人と人が支え合う暮らしのコミュニティを
育てていきます。



NPO法人 未来鎌倉をつくる会

リモートファームとは？

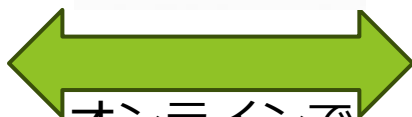
全国の親子が、畑を「見守り・育て・分かち合う」
まったく新しい食育x地域貢献プロジェクト

①オンラインで畑を見守る



◆全国どこからでも畑の成長を見守

- オンラインカメラで農地の様子を配信
- 家族で野菜の成長を共有
- 子どもが「育つ過程」を日常で体験



オンラインで
自宅と畑が
つながる

②現地で体験する(希望者)



◆実際に畑を訪れ、土と野菜に触れる

- 鎌倉周辺の農地で収穫・体験
- 育て、見守り、分かち合う関係が続く農園
- 家族の学びと記憶に残る体験

③収穫物を地域へ還元

◆育てた野菜の一部を地域へ

- 家族で野菜の成長を共有
- 子ども食堂・福祉施設などへ寄付
- 「育てること」が誰かの役に立つ実感

オンライン × 現地体験 × 地域貢献
三位一体で育てる、これまでにない農とコミュニティの形